

# 書香

2003. 10. 15

No. 42

## 目次

◎ 図書館に行こう！ （経済学部助教授 河野三郎）…………… 1	○ ヘルン文庫データベース画像表示機能の 高度化について…………… 5
◎ 諸報	○ 本学教官執筆図書案内……………10
○ 中学生が図書館業務を体験…………… 3	◎ その他
○ インターンシップ事業の実施…………… 3	○ 図書館関係会議……………11
◎ 案内	○ 平成15年度附属図書館運営委員会委員名簿 （平成15年 8月現在）……………11
○ 図書館貴重図書の紹介 ヘルン文庫（その1）…………… 4	

## 図書館に行こう！

経済学部助教授 河野三郎

そもそも、図書館は私にとって遠い存在だった。一年間で一回足を向けるかどうかという状況だった。このような状況が激変したのは、中学二年生の九月だった。

長い夏休みが終了し、新学期に入って試験が始まった頃だった。試験の準備を全くせずに試験を受けたために、全くできなかった。試験終了後、一人で教室に残っていると、仲の良かったクラスメイトの女子学生が話しかけてきた。

「河野君、アメリカ文化センターを知っている？」

「知らないよ。それ何？」

「図書館よ。アメリカの英語の本や雑誌がたく

さんあるし、カラー映画がただで見れるのよ。今度の土曜の午後行かない？」

「うん、行こう！」

と、いうわけでアメリカ文化センターに行った。行ってみて、本の量と種類の多さに圧倒された。絵本、雑誌、文学全集、新聞、コミックまであった。このような印刷媒体の多様性に触れるのは、初めてだった。しかもそれらがすべて英語で書かれていた。印象的なのは、American Economic Review や Life まであったことだ。雑誌のジャンルが多様で、読めもしないのにパラパラとページをめくって、アメリカ文化に接しているんだと思

うこともあった。今日のように、外国文化に接触する機会が多くなく、アメリカ文化センターは貴重な情報源だった。

外国人の存在自体がめずらしく、ましてアメリカ人と話すことなど想像もできなかった。しかし、その機会が九月末日にやってきた。アメリカ人の学生がアメリカ文化センターを訪れたのだった。日本全国を横断する途中で松山に来たのだった。

“How are you?”

“I am fine, thank you”

ここまでは言えた。しかし、後が続かない。何を言ったのか覚えておらず、緊張していた。私の発音が不正確だったために、話しが通じなかったのだ。必死で発音を直してみたが、全くだめだった。外国語を学ぶことの困難さを味わった。発音を直すにはどうすればいいのだろうか。この問いへの解答は身近なところにあった。

アメリカ文化センターには、テープレコーダーとオープンリールのテープが多く備えてあり、それらが自由に使用できた。テープには、有名な John F. Kennedy 大統領の就任演説や Voice of America の番組も収録されていた。内容はわからなかったが、発音の矯正にはテープが役だった。

テープと共に活用したのが、映画だった。劇場映画ではなく、アメリカンライフを扱った映画やアニメーションだった。

毎週土曜日にこうした映画を見るために、アメリカ文化センターに通った。テレビでもカラー放送に一日に一時間くらいしていたが、まだ白黒放送が中心だった。だからカラー映画が無料で見れるのは、魅力だった。この当時、日本はまだ発展途上国であり、アメリカの豊かな社会は夢のよう

だった。しかし、日本には活力があり、いずれアメリカに追いつくだろうと思った。アメリカとソビエトの宇宙開発競争が激しく、宇宙船から撮影した地球の姿を見て感動した。また、自由政策を執行していたチェコスロバキアの現状を伝える記録映画を見たり、ヤングアメリカンズによる音楽映画は私に音楽の楽しさとアメリカの懐の深さを実感させたのだった。

未知の世界だったアメリカに少しずつ近接していったことは、私に大きい「遺産」を与えてくれたのではないだろうか。技術進歩により CD や DVD が登場し、生活は便利になったが、外国語を学習する場合に書物しかなかった明治時代の人々と比較して、われわれはどれだけ進歩したのだろうか。人間として「質」は、技術進歩と比例して向上したのであろうか。日本は経済活動において世界の上位にくいこんでいるが、果たして精神面においてかつて指導的立場に立ったことがあるだろうか。以前読んだフランスの雑誌に次のような発言があった。

「日本は確かにフランスよりも豊かかもしれない。しかし、道義的・精神的にわれわれは世界に貢献してきた。三島や川端は何故死を選んだのだろうか。このことを日本人は考える必要があるのではなかろうか。」

以上、とりとめもなく書いてきたが、一つ言えることがある。「図書館に行こう!」。そこには未知の世界が広がっています。新しい世界を知れば、そこから新しい道が自ずと開けます。図書館に行くならば、次のことを思い出してください。

Seek, and you shall find.

Ask, and you shall be given

Know, and the door will be opened.



## ■ 中学生が図書館業務を体験 ■

—「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」—

去る7月7日(月)～11日(金)の5日間、本館において、富山県教育委員会が実施する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業の趣旨に基づき、中学生が職場体験を行いました。

今年で5回目になるこの事業には、今年度も富山市立西部中学校から協力依頼があり、女子生徒5名が図書館業務を体験しました。

はじめに山地図書館長から、図書館の仕事は外から見えることはごく一部で、カウンターの奥では非常に多くの仕事が行われている。この体験を通して図書館の重要さを理解してもらうとともに、将来の仕事の参考になれば幸いである旨の挨拶があり、引き続き、図書館の仕事の概要説明および館内見学を行いました。

2日目以降は、オンラインによる国内外の図書館の蔵書を検索したり、図書館サービス業務のうち、図書の配架整理、現物貸借、文献の複写サー

ビスなどを体験してもらいました。パソコンで他大学の図書館と図書資料に関する情報のやり取りを行っていることや、図書の配架、貸出図書の発送、文献の複写など初めての体験に、とまどいながらも一生懸命に取り組んでいました。



文献複写を行う中学生

## ■ インターンシップ事業の実施 ■

今年度から、本学においても、学生に職業体験をさせることにより、学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を図ることを目的とするインターンシップ事業が実施され、図書館では工学部の男子学生2名が、去る7月28日(月)～8月1日(金)の5日間、本館において職業体験を行いました。

図書館業務の概要説明があり、図書資料等の受入・整備と利用者向けサービスの実習を行い、続いて、図書館の管理・サービス及び図書館システムの開発と現状等についての説明等が行われました。

学生は、パソコンやキーボードを操作しての作業には安定した力を発揮していましたが、普段意識していなかった図書館内部の様々な作業や図書整理に伴う肉体労働、ネットワークを利用したデータベースの構築等には新鮮な驚きがあったようで、インターンシップへの参加は貴重な体験になったように感じられました。



## 図書館貴重図書を紹介 「ヘルン文庫」(その1)

ヘルン文庫は、ラフカディオ・ハーン（日本に帰化して「小泉八雲」と称した）の旧蔵書を文庫として保管・利用しているものです。

### ヘルン文庫が富山大学にある由来について

大正12年11月に、富山大学の前身校の一つである富山高等学校の初代校長南日恒太郎先生が開校準備のため上京されたおり、南日先生の実弟の田部隆次氏から、小泉家ではこれらの蔵書を管理できる大学の図書館等へ譲渡してもよいとの意向をお持ちになっていることをお聞きになった。南日先生は、翌年開校予定の富山高等学校に優秀な先生方を集め、当地の文化の中心になる機縁になることを願われるとともに、同校に招致するに相応しい蔵書であると判断され、早速に田部氏を通じ譲渡の申し出をされました。話は、1週間のうちにまとめ、その年の暮れには富山へ搬送されました。譲渡の資金については、富山高等学校の創設に多大な私財を投じられた、富山市東岩瀬の北前船の回船問屋「馬場家」に寄付を仰がれ購入が実現しました。そして、当時「馬場家」で経営に当たっておられた「馬場はる子」氏が、翌大正13年6月10日の富山高等学校開校記念日にこの蔵書を開校記念として寄贈され、「ヘルン文庫」として所蔵するに至ったものです。

昭和24年5月、新制富山大学の発足に伴い、この「ヘルン文庫」は、富山大学附属図書館の蔵書として引き継がれ、今日に至っています。

また、ハーンを「ヘルン」と呼称することについては、八雲が最初に

英語教師として赴任した島根県松江中学校の辞令に、片仮名で「ヘルン」と書かれていたことから周囲の人たちも「ヘルン先生」と呼ぶようになり、本人も親しんでいたことからこのように呼称されるようになったとされています。

### 八雲の日本での生活について

八雲は、明治23年4月4日に横浜に到着しました。アメリカの出版社ハーパーの依頼で、ウエルトンという挿し絵画家と一緒に日本の紀行文を書く目的で日本に来たのです。

ところが、挿し絵画家より自分の契約金が低い事を知り、ハーパー社との契約を破棄ししばらく日本で生活することに決めました。

日本での最初の赴任地が松江でした。松江では1年間、尋常中学及び師範学校で英語教師として教鞭をとりました。

次に、熊本の第五高等学校で2年間、同じく英語教師として教鞭をとり、次に、神戸クロニクル社の新聞記者として3年間神戸で暮らしました。



附属図書館本館5階ヘルン文庫内



その後、東京帝国大学（現在の東京大学）から招請を受け、最初の英文学の講師として7年間教鞭をとりました。晩年の54才の半年は、早稲田大学でも教鞭をとっています。

このように、八雲は日本で松江、熊本、神戸、東京と移り住むことになりました。

### 八雲の著作活動について

八雲は、明治23年から明治37年まで14年間日本で生活しましたが、この間に日本に関する図書を13冊、アメリカで刊行しています。また、神戸クロニクル社時代にも日本に関する小論、随筆を多数書いています。なお、日本に来る前の八雲の著作については、彼の友人が2編の小説を含め、紀行文、翻訳書（彼は、アメリカでフランス文学の紹介者としても活躍していた）、中国に関する著作ほか、新聞・雑誌等の記事を集め、彼の没後に著作全集として収め、大正11年(1922)に刊行しています。

「小泉八雲」は、日本での著作及びそれ以前の彼の文学的作品を通して、現在日本では、明治の文豪としての評価を受けています。

八雲が著した日本に関する図書13冊のうち、最初に出版された図書「知られぬ日本の面影」（ニューヨーク、ハウトン・ミフリン書店刊）は、別名「日本瞥見記」とも言われており、日本に上陸してから松江を去るときまでを、上下2巻に著しています。特に、下巻の「日本人の微笑」という日本人独特の感情表現をとらえた一文は高く評価されており、当時、海外でこの一文を目にした民俗学者の柳田国男は、大変に感動したと述懐しています。

以後、「東のくにから」や、著名な「耳なし芳一」を収めた「怪談」、彼の没後に刊行された「天の川奇譚」等、合計14冊が出版されましたが、分けても彼が晩年辛苦を傾けた労作、通称「神国日本」といわれる「日本一つの試論」は、彼の日本関係の学究を集大成した大作であり、海外において日本を理解するうえで欠くことのできない作品として、ベネティクトの「菊と刀」に並ぶ高い評価を受けています。本学図書館で保管しているものは、この無校正の手書き原稿1,200枚です。

ヘルン文庫には、2,435冊からなる旧蔵書が保管されており、旧制富山高校時代に分類された図書内容に従い配列されています。大半は、八雲が生前に収集した図書で、英語図書、仏語図書、日本で主に妻のセツが買い求めた和漢書から構成されており、学問大系に沿ったコレクションとして高い評価を受けています。

今回は、文庫内に納められている蔵書で、八雲の著作活動の糧となった図書の内容と、特色ある蔵書について紹介します。



小泉八雲胸像レリーフ =ヘルン文庫入口展示=  
(東京大学総合図書館に所蔵されている大理石の原型からの複製)

# ヘルン文庫データベース画像表示機能の 高度化について

## ＜ヘルン文庫の画像データ＞

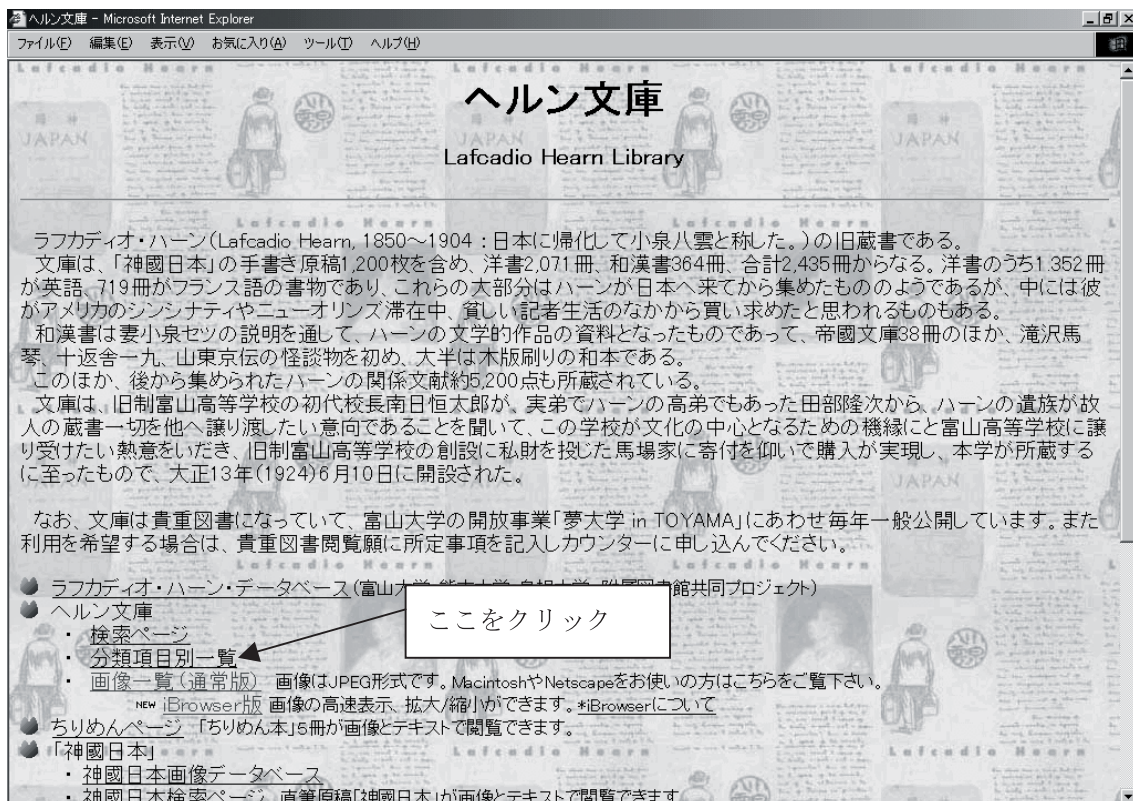
富山大学附属図書館が収蔵する「ヘルン文庫」は、ラフカディオ・ハーン（日本名：小泉八雲 1850-1904）が所蔵していたコレクションで、2,435冊（洋書2,069冊，和漢書364冊）にのぼり，附属図書館の本館5階の資料室で保管されています。

ヘルン文庫の内容は，「ヘルン（小泉八雲）文庫目録改訂版（稿）」（平成11年刊・冊子体）で調べられますが，データベース化された目録もインターネット上で公開しています。この目録データベースは，インターネットで公開しているので，いつでもどこでもヘルン文庫の内容について検索することが可能です。附属図書館のトップページに「ヘルン文庫」というボタンを付けているのでここから簡単にアクセスすることができます。

（「ヘルン文庫」の URL <http://www3.toyama-u.ac.jp/lib/hearnlib.html>）

ヘルン文庫の和漢書のコレクション364冊から4,950点の画像がデジタル化されており Web 上で閲覧することができます。

次の画面で，「分類項目別一覧」をクリックすると，和漢書の目録リストが表示されます。リストの中で，「Number」の部分がハイパーリンクされているものをクリックするとその資料の表紙の画像とリンク付けされたページ一覧が表示されます。「画像一覧」をクリックすると，デジタル画像化された資料のみを集めた資料のリストが表示されます。



ヘルン文庫のうち、デジタル画像化されている資料は次のとおりです。

1	十訓抄 上、中、下 写本. 3冊
2	古今著聞集 1-15(20巻) 橘成季著.
3	骨董集 卷之1-卷之4 山東京伝著
4	用捨箱 上-中 柳亭種彦著.
5	夷堅志：和解 1-8 宋洪邁原著.
6	三國事蹟除睡鈔 1-8 沙門盤察著.
7	繪本寫寶袋 1-9 (上-下) 橘有税著画. 再板.
8	玉すだれ 1-6 辻堂兆風著.
9	猿著聞集 1-5 八島定岡著.
10	想山著聞奇集 1-5 三好想山著.
11	相生玉手箱 1-5 池田遊鶴著.
12	長崎夜話草 1-5 西川忠英著.
13	北越雪譜 初編上、中、下 二編春-冬 鈴木牧之著.
14	北越奇談 1-6 橘茂世著.
15	奇談北国巡杖記 1-5 鳥酔堂北巫著.
16	今古奇談翁草 1-5 浦邊源曹著.
17	古今奇談繁野話 1-6 近路行者著.
18	遠山奇談 1-4 浄林坊辨惠著.
19	遠山奇談 後編1-4 浄林坊辨惠著.
20	臥遊奇談 1-5 一夕散人著.
21	木耳雜記 1-10 風月舎松窓著
22	宿直草 1冊5巻.
23	世事百談 1-4 山崎美成著.
24	諸国怪談実記 5.
25	怪談諸国物語 1冊5巻 滑稽山人団水著.
26	新累解脱物語 1-5 曲亭馬琴著.
27	当日奇観 1-5 (席上奇観垣根草) 暁鐘成著.
28	新撰百物語 5冊(合本)
29	怪物与論 5冊(合本) 十返舎一九編.

## <デジタルコンテンツブラウザ iBrowser (アイブラウザ) の導入>

今までは、これらの画像はサイズが大きく、1ページを一度に表示することはできず、一つの画像のすべてを見るにはスクロールさせて見る必要がありました。このたび、画像を iBrowser という閲覧ツールで見られるように画像のフォーマットを変換し、画像データベースを新たに構築しました。その結果、画像の表示機能が大幅に向上しました。

iBrowser で開いた画像の上を、マウスでポイント（マウスの位置を示す矢印が表示された状態）して、マウスのボタンをクリックするだけで画像のズームイン・ズームアウト（拡大・縮小）が高速に行え、画像の移動もスクロールをすることなく簡単に行えます。



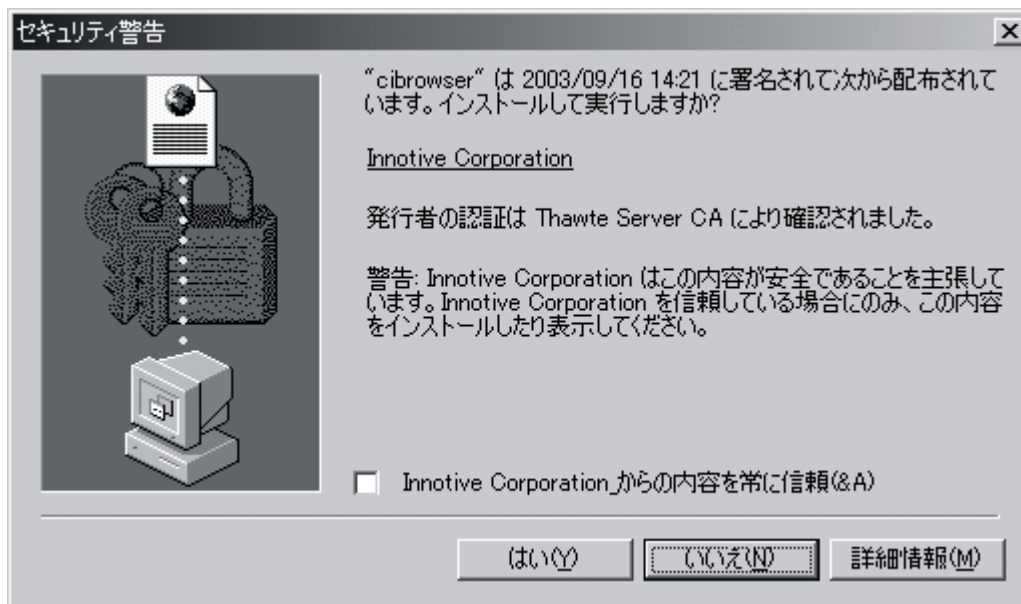
- マウスの左ボタンクリック：画像がワンタッチ拡大（3段階）
- マウスの右ボタンクリック：画像がワンタッチ縮小（3段階）



- マウスの左ボタンをドラッグ（左ボタンを押したままマウスを動かす）：画像が上下左右に動く（最小画像では移動できない）

iBrowser で画像をご覧いただくためには、Windows 版の Internet Explorer (version 5.0以降) をお使いください。それ以外の Netscape などのブラウザや Macintosh では残念ながら対応していません。

iBrowser に対応した画像を初めて閲覧しようとする場合、次のような画面が表示されます。これは、Internet Explorer に付加されるプラグインをインストールする画面で、最初の一回のみ必要となります。このインストール後に iBrowser で画像を見ることが可能になります。

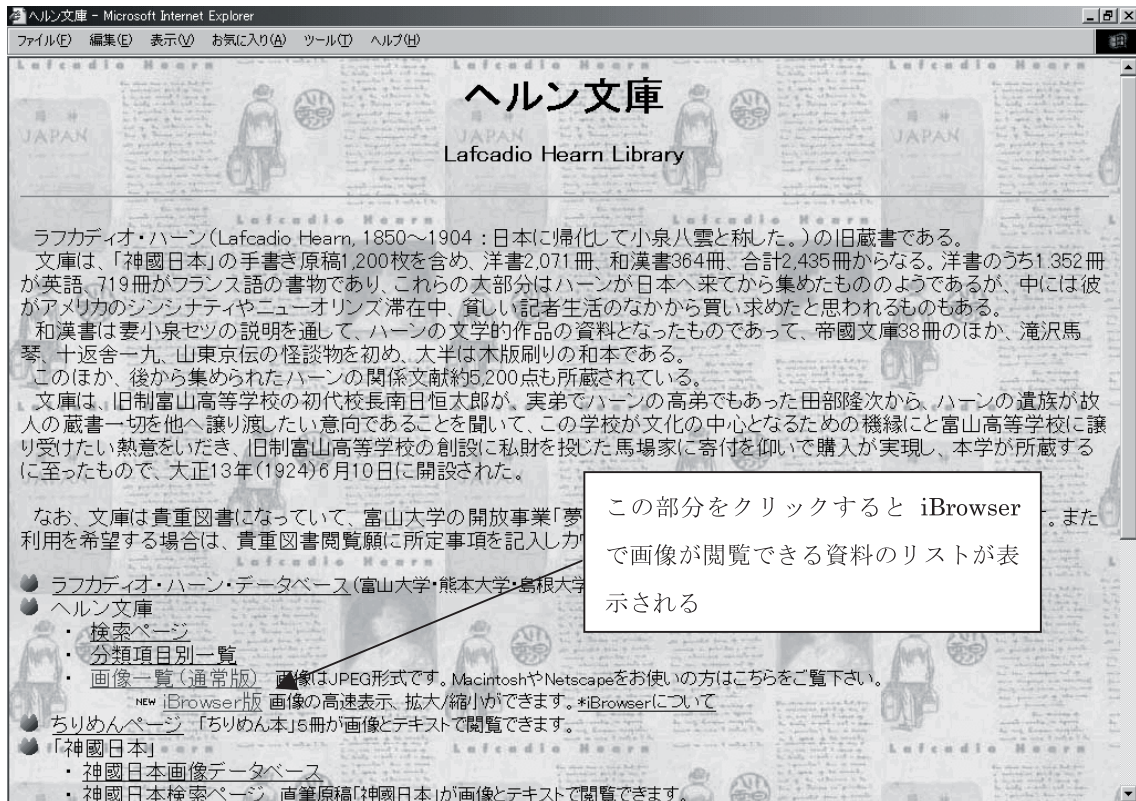


ここで「はい」をクリックすると、Internet Explorer にプラグインがインストールされます。このプラグインは後で削除することも可能です。削除する方法については、ヘルプ文庫のトップページからリンクしている「iBrowser について」というページで説明しています。

### ＜iBrowser 版の画像を閲覧するには＞

iBrowser を利用して画像を見るには、ヘルプ文庫のトップページで「画像一覧」の「iBrowser 版」という部分をクリックしてください。画像を閲覧できる資料のリストが表示され、見たい資料をクリックするとここからリンクされた画像は iBrowser での表示モードになります。





今後は、富山大学附属図書館が所蔵する特殊コレクションのうち、「川合文書」<sup>かわいもんじょ</sup>、「菊池文書」<sup>きくちもんじょ</sup>についてもデジタル化されている画像データを iBrowser で閲覧できるよう計画しています。一層のご利用をお願いたします。

(情報サービス課学術情報係)

## 本学教官執筆図書案内

附属図書館では、本学教官が執筆した図書を積極的に収集しています。それらの図書は本館1階の専用コーナーに配架され、学生の皆さん等によって、有効に利用されています。新たに本を出版される際には、是非、図書館に2部ご恵贈くださるようお願いします。

ご寄贈いただいた図書は、『書香』及び附属図書館ホームページで紹介します。今回は平成15年3月以降の受入分です。

### ■ 社会科学

非武装平和憲法と国際政治：コスタリカの場合 / 竹村卓（人文学部）著  
三省堂 2001年（319/T14.7/Hi）

教員文化の日本の特性：歴史、実践、実態の探究を通じてその変化と今日的課題をさぐる/久富善之  
編著

多賀出版 2003年（374.3/K95/Ky）

執筆者：仲嶺政光（生涯学習教育研究センター）ほか

アメリカ中等学校におけるホーム・エコノミックス教育の成立過程の研究 / 磯崎尚子（教育学部）著  
風間書房 2000年（375.53/Is7/Am）

発想から論の前後まで / 安藤修平（教育学部）著  
明治図書出版 2003年（375.8/An2/Ha）

青木ゼミ研究報告書：平成14年度経営学演習青木ゼミ / 青木亮（経済学部）監督・編集  
[編者発行] 2003年（377.15/Ao4/Ke=2002）

### ■ 自然科学

新版有機化合物の構造とスペクトル / 山口晴司（理学部）ほか著  
三共出版 2003年（437.01/Un3/Yu=1S）

### ■ 語学

日本語修飾構造の語用論的研究 / 加藤重広（人文学部）著  
ひつじ書房 2003年（815/K16/Ni）

### ■ 文学

アメリカ文学とテクノロジー / 鷺津浩子ほか編  
筑波大学アメリカ文学会 2002年（930.29/W27/Am）  
執筆者：大工原ちなみ（人文学部）ほか

## 図書館関係会議

(平成15年4月～8月)

### ◎ 学内関係

- 第1回附属図書館運営委員会  
期日 平成15年5月22日  
場所 附属図書館会議室
- 第2回附属図書館運営委員会  
期日 平成15年7月30日  
場所 附属図書館会議室

### ◎ 学外関係

- 第54回北信越地区国立大学図書館協議会  
期日 平成14年4月24日～25日  
場所 コープシティ花園（新潟市）
- 国立大学附属図書館事務部課長会議  
期日 平成15年5月28日  
場所 東京医科歯科大学
- 第50回国立大学図書館協議会第50回記念総会  
期日 平成15年6月25日～26日  
場所 大宮ソニックシティ

### 平成15年度附属図書館運営委員会委員名簿

(平成15年8月1日現在)

館長	山地啓司	工学部	袋谷賢吉
人文学部	湯川純幸	工学部	竹越栄俊
人文学部	田村俊介	教養教育実施機構	奥村譲
教育学部	呉羽長	総合情報基盤センター	村井忠邦
教育学部	徳橋曜	事務部長	東高明
経済学部	坂幸夫	情報管理課長	五十嵐輝雄
経済学部	高山龍太郎	情報サービス課長	木村優
理学部	宮澤眞宏		
理学部	森脇喜紀		

「書香」は図書館ホームページへも掲載しています。

URL <http://www3.toyama-u.ac.jp/lib/>

富山大学附属図書館報「書香」No.42

2003年10月15日発行

編集 富山大学書香編集委員会

発行 富山大学附属図書館

富山市五福3190

電話 076-445-6891 (ダイヤルイン)